



YES 通信

〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2024年5月号

糸島珠算競技大会に参加しました!

5月12日(日)に第10回糸島珠算競技大会に参加させていただきました。ピコからは2名の生徒が参加させていただきました。

初めての競技会参加ということで、緊張なされたお子様も多かったのではないかと推察いたします。

年長さんから中3生まで83名の選手を、厚食はさんで5時間集中させるのは至難の技だと思っておりますが、それを手際よくさばられるスタッフのみなさんの努力と参加した選手達の頑張りには頭が下がります。

私達ピコのスタッフも競技大会は初めての経験だったので大いに勉強になりました。ピコは個別指導で一人一人に合わせた対応やアットホームな雰囲気の特徴とした強みがある反面、緊張感や競争意識を煽るのはなかなか苦手な分野でもあります。このような環境を共有できたのは、我々スタッフにとっても生徒達にとっても、とても有意義な時間となりました。

私が一番印象に残ったのは、「よっいはじめ!」という掛け声で競技がはじまるのですが、よっいはじめ!という号令で全員が一斉に問題用紙をひっくり返す音でした。流石にあの音を聞くと否応にも緊張が高まります。

また、主催者の先生の塾では、コールテンウィー

クを利用して、進行を担当された2人の他塾長さんの塾と合同で合宿を実施なされたことでした。

まさにクラブチームのようなそろばん塾もあるのです。そのような意識でそろばんに取り組み塾長やスタッフ、そして生徒さんや保護者様と同じ時間を共有出来たことには大きな意味があると感じています。

「イメージ出来ないことは出来るようにならない」という言葉があります。イメージするためにはそれをリアルに想像することが重要なのですが、そのためには実際に見ることが一番です。

この日は、九州大会で優勝レベル程度の中学生が参加していました。また、主催者の先生の教室の高校生もスタッフとして参加していました。そのようなレベルの高い生徒たちのそばに取り組み姿勢や、競技中の姿を見ることで、イメージが出来るというのも良かったのではないかと考えています。

ピコでも最初は6級の壁をなかなか超えることが出来ませんでした。しかし、一人が6級を超えたら次々と6級を超える生徒が出てきました。これは出来ている生徒が身近にいるとイメージが出来るからだと考えています。

競技会で優勝するような高いレベルではなくても、同じような学年や級でも意識が高く上手な生徒

は沢山いたと思いますので、良いイメージを意識してそろばんに取り組んで欲しいと考えています。

今回は、まだ受験番号や名前がすぐに書けないような未就学児も参加していました。そのような小さい生徒や普段はなかなか集中が持続しない生徒が、食事休憩を挟んでではありませんが5時間以上集中して頑張ることが出来たのは、環境のなせる業なのだとスタッフの方がおっしゃっていたことも印象的でした。

このような環境に身を置くことこそが、さらなる上達につながると思っていますので、来年も是非参加させていただきたいと考えています。

最後になりますがチャレンジコースのお子様には中学生からメダルを授与していただきました。上位者でトロフィー等をもらった生徒の笑顔も素敵でしたが、小さな選手のメダルを首にかけた時の笑顔も格別でした。



やる気相談室

糸島

家庭菜園(自給自足)に挑戦してみませんか?

みなさんは、自給自足

るまでは野菜作りはとても難しいものだと
思っていました。

虫やバッタもきますがそれを食べるカマキ
リやクモも来たりして、案外バランスが取
れていくものなのです。

って難しいと思います
か? 私もコロナで4年前
に畑を借りて家庭菜園を
始めた頃は、自給自足は
遠い目標のように思って
いました。しかし、実際

実は随分前に家の庭で家庭菜園に挑戦し
たのです。しかし、あまりにも手間が掛る
ので辞めてしまいました。それからあまり
手入れをしなくてもいい果樹にしたので
す。

この春は、ソラマメが大量にできてい
るのですが、このソラマメは昨年作ったソラ
マメの種から出来たので、本当にゼロから
育てているのです。しかも、マメ科の野菜
は土を肥沃にしてくれるのです。

にやってみたら、なんと
去年はほとんど野菜を買
わなくて済みました♪

でも今考えると当たり前のことなので
す。日当たりの悪い庭で、栄養の無い真砂
土にちよっと手を加えてキャベツなど栄養
や光が必要な野菜を植えていたからです。

知れば知るほど楽しくなるのが農業で
す。土づくりの技術が向上したら庭の花や
果樹も元気に育つようになってきていま
す。

ただ、同じ野菜を毎日食べるような事態
が起こることもあります(笑)旬の野菜
をおいしくいただけるのは本当にありがた
い事だと感じています。

しかし、今ではYouTube等で情報も取
れたりするので、栽培の情報も手に入りや
すくなっているのです。

浪費する時間は畑仕事をする時間に変わ
り支出も減りました。野菜も買わなくてい
いので、最後の不安が一挙に解消します。

私が借りている畑は、

今私がやっているのは、自然栽培で肥料
も農薬も使わない野菜作りです。そんなの
で本当にできるの? 虫が食わないの? と思
うかもしれませんが、これが案外育ってく
れるのです。

みなさんも土と戯れてみませんか?

年間60000円で
お借りしています。周りにも「畑をしたい
人がいたら紹介してください!」と言う方が
いらっしやるので、興味ある方はご連絡く
ださい。

自然の力は本当に偉大で、自然に任せて
いくと、アブラムシも来るのですが、アプ
ラムシを食べるテントウムシが来たり、青

いびつな形の人参とごぼうが出来ました(´▽`)/

糸島に住んで糸島で畑を借りることが出
来てとても良かったと感じています。始め

ラムシを食べるテントウムシが来たり、青



大量の突然死・ガン・後遺症をもたらす

小島弘基 著
松井和義 監修
田中正剛 監修

コロナワクチン毒からの脱出法

全国からのリアル情報で実証

「ワクチン毒の解毒」と「スパイクタンパクの分解」で脱出!

大量に作られるスパイクタンパクが原因!

今、全国で起こっているワクチン「毒」による被害の実情を当事者からの情報で明らかにし、その脱出法を提案! コスモ21

書籍紹介 コロナワクチン毒からの脱出法 松井和義 著

この本の著者である松井氏は、自身が発行するミミテック通信でコロナワクチンの危険性をワクチンの接種前から伝えておいてでした。私はそのお陰でワクチンを接種しないという選択をしました。家内も同様に摂取しませんでした。二人の子供達は職場の環境もあり接種せざるを得ませんでした。マスコミは報道しませんが、「人体実験をさせられた」として、新型コロナワクチン接種後の死亡者遺族8人と健康被害者5人の計13人が国に損害賠償を求め、「新型コロナワクチン接種後被害の救済を求める全国新型コロナワクチン被害者及び被害者遺族集団訴訟」を提起4月17日、東京地方裁判所に訴状を提出しました。また、インフルエンザの後遺症で国が認定した死亡者数は2012年~2021年で総接種回数1億7922万1430回でたったの4名なのに対し、新型コロナワクチンでは1億9308万5078回で378名となっています。なんと87.7倍の死亡率になっているのですが、それでも報道はありません。私が思うには、もう時間の問題でワクチンは安全かどうかではなく、間違いなくワクチン被害からの治療法がテーマになる時代に入っていると考えています。この本にはワクチンで生成されたスパイク蛋白質が血管に刺さることに血流が悪化し、心筋炎等の障害やガンの進行がとても速いターボガンによる死因が増えていると書かれています。